

## 令和2年度基本方針及び重点目標

### 1 基本方針

大分県立図書館は、社会教育法、図書館法並びに本県教育の基本施策に基づき、県民の生涯にわたる多様で自発的、継続的な学習要求にこたえるキー・ステーションとして、大分県公文書館、大分県立先哲史料館と一体となって、「だれでも、いつでも、どこからでも」利用できる社会教育施設としての機能を果たすとともに、県民の教養・文化の向上に寄与するため、広報の充実に努めながら、活力ある全県的な図書館活動を推進する。

また、人の成長段階に応じて必要な役割をしっかりと果たしていくとともに、市町村社会教育行政等との緊密な連携のもと、地域社会の課題解決に役立つサービスの提供に努める。

### 2 重点目標

#### (1) 県民の読書活動の推進

- ・あらゆる環境にある子どもの読書活動支援
- ・障がい者、高齢者等多様な利用者の読書活動の支援
- ・地域の読書活動を支える人材の育成

#### (2) 資料収集・保存・提供の推進

- ・バランスのとれた蔵書構成に考慮した幅広い資料の体系的・継続的な収集
- ・専門的・学術的資料等の収集・保存と郷土資料のデジタル化の推進

#### (3) 市町村立図書館、学校図書館等支援

- ・職員研修や図書館相互貸借等による市町村立図書館への支援の充実
- ・学校図書館への支援
- ・不登校児童・生徒への支援

#### (4) 県民の調査研究・課題解決支援

- ・職員の資質向上とレファレンスサービスの充実
- ・行政や民間団体等との効果的な連携（相談会、セミナー、連携講座、情報提供）
- ・公開講座の充実

#### (5) 市町村社会教育行政等への支援

- ・地域人材と社会教育指導者等との育成に向けた研修、講座等の実施
- ・市町村及び関係機関、団体等への指導・助言及び支援
- ・生涯学習情報の収集・調査・提供

## 大分県立図書館運営の状況に関する評価

### ◎ 図書館法

第7条の3 図書館は、当該図書館の運営の状況について評価を行うとともに、その結果に基づき図書館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない。

### ◎ 評価の方法

各年度に定めた重点目標ごとに評価指標を設定し、年度終了後、それぞれの指標ごとの実績値について自己評価を行い、それに対して、図書館協議会委員が外部評価として意見を記載する。自己評価及び外部評価としての委員意見をあわせてHPにより公開する。

なお、自己評価はAからDの4段階とする。

A: 非常に成果があがっている。

B: 成果があがっている。

C: それほど成果があがっていない。

D: 全く成果があがっていない。

⑤ 評価

(1) 県民の読書活動の推進

評価指標

・ 入館者数

|         |         |
|---------|---------|
| 令和元年度実績 | 451,439 |
| 令和2年度実績 | 275,192 |

| 自己評価 | 理由  |
|------|---|
| C    | 開館日数は前年と同じ290日だが、入館者数は前年比で61%と減少した。入館者数は2013以降減少傾向のため若年層を対象とした行事の増や魅力向上を進めているが、コロナ禍による時間短縮、行事中止、人数制限、来館控えの影響があった。 |

委員意見

|   |
|---|
| <p>コロナ禍のなかでは、やむを得ない。</p> <p>コロナ禍の影響が大きいため、B評価も考えられる。</p>  |
| <p>コロナ感染拡大による入館者数の減少は、決してマイナスの評価に直結するものではない。感染防止に努めていることの現れでもある。加えるなら、感染症対策を工夫して事業を実施し、図書館から感染者を出していないことはA評価である。よって自己評価の「C」は適切ではないように思われる。評価は「A」が妥当である。せめてAとCの間であるB評価ではないか。</p>   |
| <p>入館者数だけで比較すればこの評価とせざるを得ないが、今後、このようなコロナ禍の中、評価指標の見直しが必要ではないかと思う。今後も、2019年6月に施行された読書バリアフリー法の趣旨を踏まえ、視覚障害者等による図書館の利用に係る体制の整備やインターネットを活用した広報・情報提供体制の充実及び障害者サービスの充実を図る取り組みをお願いする。</p>  |
| <p>入館者数についての評価Cについては仕方ないと思うが、理由についてはコロナ禍による理由を先に持ってきたほうが良いのではないかと。コロナ感染症対策での時短や緊急事態宣言での休館等なければ、入館者数の減少がなかったのではないかと思う。コロナ禍でこれだけの入館者数があるということは図書館としての機能を果たしているのではないかと感じた。今はワンクリックで求めている本がほぼ購入ができる時代となっている現状で、入館者がどのような思いで来館しているのか深い思いを聞いてみたい。</p> |
| <p>県図書館を訪れる人の数のみでは評価できないのではないかと。さまざまなところへの支援も入館者数と同じに県図書館にかかわる人の数として評価してよい。</p>   |
| <p>コロナ禍の状況では、通年と同じ尺度で来館者数で判断するのは難しい。減少は仕方ないと思う。おたのしみ袋の取組はもっとPRしてよいと思う。先日も読書は認知症患者に効果があるという記事を読んだ。そういった病院や施設との連携も今後は意味があると言える。電子図書取組はもっと推進してほしい。リモート図書館としての役割は期待大。活字に親しむ一助にもなる若い世代はデジタル慣れしている。</p>   |
| <p>新型コロナウイルスの感染予防による外出自粛の中、入館者が減るのは当然で、その来館者数では判断つきにくい。目標に向けた数々の取り組みについてはご尽力いただいていると思うし図書館の方々を高く評価したい。その上で、この4段階の評価については去年、今年とあまり重きを置かず、これまでの取り組みをコツコツと続け、社会の現状が回復したのちに効果が現れるのではないかと思う。全ての重点目標において、これまで同様の取り組みの継続をお願いする。</p>                    |

## (2) 資料収集・保存・提供の推進

### 評価指標

#### ・全資料数(デジタル化資料を含む)

|         |           |
|---------|-----------|
| 令和元年度実績 | 1,204,777 |
| 令和2年度実績 | 1,220,648 |

| 自己評価 | 理由  |
|------|---|
| A    | 県立図書館としての蔵書構成を維持し、専門書を中心に幅広い資料収集に努めた。一般資料の専門書購入割合は48.9%で、前年度より8%上昇した。また寄付金を活用し、教科書に掲載された本等、児童の学習を支援する資料を重点的に整備した。 |

### 委員意見

|  |
|--|
| 多くの学校、教職員に知ってほしい。  |
| デジタル化は着実に進んでいる。  |
| 評価は適切である。郷土資料のデジタル化が着実に進んでいる点が評価される。   |
| 今後も、障害者や高齢者のため、多くの大活字本、朗読CDなどの収集をお願いする。  |
| 児童の学習を支援する重点的に整備した取り組みについて高く評価する。  |
| 前年度より8%の上昇は評価できる。県図書ならではの、県図書でしかできない仕事であると思われる。                                      |
| あの時はどんな時代だったのかと、コロナの今を振り返るときも必ず来るはず。五輪の今年はなおさら。ぜひ、大分合同新聞も時代を移す記録として資料化してほしい。教訓になるはず。 |

## (3) 市町村立図書館、学校図書館等支援

### 評価指標

#### ・協力貸出冊数

|         |        |
|---------|--------|
| 令和元年度実績 | 24,334 |
| 令和2年度実績 | 23,838 |

| 自己評価 | 理由  |
|------|---|
| B    | 全18市町村中、1市を除き所管する全小中学校の貸出ネットワークへの登録が完了した。コロナ禍による休館のため市町村図書館利用冊数は減少したが、学校の利用冊数は増加した。 |

### 委員意見

|   |
|---|
| 大分市以外の学校は蔵書数が少ない学校が多いので、貸出ネットワークの登録は良いことだと思う。高校はそのようなネットワークは参加してないのでしょうか。             |
| 学校の利用冊数は増加している。   |
| 評価がBであるが、仕方ない面がある。司書等派遣事業については、県と市町村の実務者の関係構築の点で、定期的な実施が期待される。                        |
| コロナ禍で家庭にいたることが多くなったことで学校図書の利用冊数が増えたのか、学校図書館が充実してきたので利用冊数が増えたのか知りたい。                   |
| この状況の中でネットワークの登録を増やし、学校の利用冊数を増やしたことに努力がみられる。  |
| 休館日を利用した支援活動はとても評価できる。不登校の子どもは静かな環境であれば、人目も気にせず自分の興味ある分野の本に触れられる。人生が変わるきっかけになるかもしれない。 |

(4) 県民の調査研究・課題解決支援

評価指標

・レファレンス件数(簡易なものを除く)

|         |       |
|---------|-------|
| 令和元年度実績 | 9,847 |
| 令和2年度実績 | 7,729 |

| 自己評価 | 理由   |
|------|--|
| B    | 入館者数は前年比61%と減少したが、レファレンス件数は前年比78.5%の減少に留まった。口頭による相談は減少したが、コロナ禍での休館中や時間短縮中でも電話やメールでの受付は継続し、電話やメール等での相談は微減に留まった。 |

委員意見

|   |
|---|
| コロナ禍の影響は大きい   |
| コロナ禍で十分に対応されていることからB評価でよい。  |
| 直接入館してのレファレンスは減少したとしてもメールや電話等で相談できる体制を整えている。                      |
| 2月に新しくなった視聴覚ホールを見学させてもらい画面も大きく活用の幅が広がったと感じた。公開講座などにもっと使えるのではないかな。 |

(5) 市町村社会教育行政等との連携

評価指標

・地域人材等育成研修参加者数

|         |       |
|---------|-------|
| 令和元年度実績 | 1,692 |
| 令和2年度実績 | 1,486 |

| 自己評価 | 理由   |
|------|--|
| B    | コロナ禍による研修実施数減少に伴い、参加者数も減少した。しかし、オンライン実施等研修形態の工夫や、「やさしい日本語」の普及等新たな研修の実施により、新規の参加者を獲得することができた。 |

委員意見

|  |
|--|
| このような時には、オンライン研修の充実が必要。  |
| 新規の参加者数は増加している。  |
| コロナ禍で十分に対応されていることからB評価でよい。   |
| このようなコロナ禍の中、オンライン研修や新たな研修の実施など工夫していることから評価は、Aとしてもよいのではないかなと思ったが、評価指標が参加人数ということであれば致し方ないと思う。      |
| 集まることができない現状の中で、オンライン研修等を実施するなどとても良い取り組みではないかを感じる。コロナ終息した場合でも、対面・WEB双方の特性を活用するなどハイブリットでの研修を期待する。 |
| これからは研修の在り方も形を変えていくようになると思われる。その中で新規の参加者を獲得していることは評価できることであるし今後につながると期待できる                       |
| やさしい日本語のリーフレットを拝見してなかなかわかりやすいと感じた。学生が多い大分市でもコンパルなど街中で開催してもよいかなと思う。                               |

# コロナ禍での運営 新たな日常への模索

大分県立図書館

休館

令和2年3月 2日～4月 7日（37日間）

令和2年4月17日～5月10日（24日間）

再開

## 感染防止対策を講じながらの運営

利用制限：閉館時間 19時（平日 通常20時）

人数制限：閲覧席、学習室、研修室、視聴覚ホール（イスの減）

利用者把握：連絡先等の記入依頼

消毒の実施：換気の実施、日に4回の定期消毒

## 本年度の利用状況

|              |        |        |           |           |           |
|--------------|--------|--------|-----------|-----------|-----------|
| 入館者数：対前年同月比  | 174.4% | （4-7月  | 116,940人/ | 67,052人）  |           |
| 貸出冊数（個人）：    | //     | 129.9% | （4-7月     | 179,149冊/ | 137,962冊） |
| 貸出冊数（団体・協力）： | //     | 96.0%  | （4-7月     | 17,852冊/  | 18,596冊）  |
| 調査相談件数：      | //     | 113.3% | （4-7月     | 4,585件/   | 4,048件）   |
| HPアクセス件数：    | //     | 84.5%  | （4-7月     | 99,449件/  | 117,632件） |

※ 休館中の宅配サービス申込 170件 1,022冊

コロナ禍での運営  
新たな日常

🌀 今後に向けて



新たな利用者の開拓（**☞**新たなサービスの提供）

## 新たなアプローチ → 非来館型サービス

### ◇ 利用の分析

- ・利用者登録：2,507人 対前年比 82.5%  
年齢別 19-22が1.2倍、10-12が半分以下
- ・貸出状況：文学 28.6% 社会科学 14.3% 工業 13.4%  
60代 22.2%、70超 22.0% 10代 3%程度

### 【PRやパブリシティ強化】

#### ◆ 外部との協力、連携

- ・学校や地域（幼保施設や子育てグループ）との連携
- ・外部（企業CSR活動）との協力

#### ◆ 各ターゲット向けのアプローチが必要

- ・HP、スマホコンテンツ、広報誌の見直し
- ・個別イベント等の積極的パブリシティ

### □ 非来館型サービス

- ・電子申請（利用者登録、複写申込など）
- ・電子書籍の導入（県立学校の1人1台端末の整備）
- ・宅配サービス（障がい者）の利用拡大
- ・ホームページの充実（スマホ対応：FB, TWの活用）
- ・オンラインイベント、研修の実施
- ・自宅学習コンテンツの充実
- ・郷土資料を中心とした資料のデジタル化  
（資料のWEB提供）